

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和5年(2023)12月10日

No. 191

発行 高津啓洋

掛川市「希望の森づくり植樹祭」参加

掛川支部では南海トラフ巨大地震により想定される最大クラスの津波に対応した高さに防波堤を嵩上げし、クロマツやその土地本来の広葉樹を植栽する海岸防災林強化事業としての「掛川潮騒の森植樹祭」などの参加を通して、生命の守り環境保全活動をしています。

(参加者の感想)

掛川市の「希望の森づくり」プロジェクトの植樹祭に参加させていただきました。海岸線に防災林を築くために3000本の樹を植えることで、約600名の人達が集まっていました。企業

団体から小さなお子さんを連れてご家族まで様々な人達が参加されました。今回私が参加しようと思ったきっかけは、この活動内容を紹介され、最初は「自然が好きだし、植林なんて初めてだから面白そうだな」という単純な理由からでした。もちろん、環境問題に対して少しは関心を持っていましたが、そのために何か行動をしていたわけでもなかったし、正直いうと樹の存在がどれくらい環境保全において重要なのかもまいちよくわかっていませんでした。参加してみて特に感じたことが2つあ

りました。
1つ目は、植林した樹がしっかりと成長できるようにと様々な工夫がされていることに感心しました。今回植えた苗木は10種類、掛川市の土地に古くから馴染む木々から選ばれたそうです。私はなぜ10種類も植えるんだらうと疑問に思っていたら、スタッフの方が「人間と同じように、木も同じもの同士じゃ成長しない。たくさんの苗木を一緒に植えてこそ生命力のある大木に育つ」と説明して下さい、樹も生き物なんだなと感じました。また「今日植えた苗木が何十年後かにしっかり育ってこそ、今日の活動が意味あるものになる」と言われ、何十年後かにこの樹が役に立つ人達のために心を込めて丁寧に植えよう！と思いました。植えたあとは保水対策と雑草防止のために、畜産堆肥と湿った木のチップを奇麗

に敷き詰めました。実際は1人5本くらいの苗木を植えただけなのであつという間でしたがとても嬉しい気持ちになりました。もし、私が今日一日のためだけの奉仕活動と思ってやっていたらこんなに達成感はなかっただろうと思います。「未来のためにやろう！」と思ってたときに、私の中で一つの苗木がとても意義のあるもの変わったように感じました。
2つ目は、緑の大切さを知ることを通して、地球環境の壮さ偉大さと人間が生きるための環境の前に「生かされている自分、愛されている自分」に改めて気づかされました。“宇宙にある何億もの星の中で、緑があることが証明されている星は地球だけ。緑があるから地球には人間が生きることが出来る”そう思うと感動が湧いてきます。何気なく咲いている緑が実はとても大切な役割をしていて、その緑が減っていることの深刻さを感じました。今までは環境問題に対して、どこか「奉仕している」という優越感が伴っていたように思います。今回直接自分で樹を植える体験して私達は自然によって生かされていることを実感しました

